

児童学研究

平成16年2月 第34号

巻頭言

蘇生を賭して……………土田隆生……………1

原 著

胎児性アルコール症候群の成長・発達におよぼす
豊環境の影響に関する実験的研究……………佐藤益子……………3
山野恒一

イヌバラ法による福祉科高校生に対する介護コミュニケーション
技術の訓練効果……………大辻隆夫……………12
塩川真理
上川貴子
平塚信子
塚原昌代

投影同一化を起こしていた男児との遊戯療法を通して
—Preambivalence から Ambivalence へ— ……石野 泉……………25
門野 香

翻 訳

グループリーダーのための基本技法……………船岡三郎……………36
板井吾郎
描画法ワークブック……………大辻隆夫……………54
塩川真理
松葉健太郎

児童学科だより……………68

平成14年度 家政学研究科児童学専攻修士論文論題一覧
平成14年度 児童学科卒業研究論文論題一覧

編集後記

児童学科だより

児童学科公開講座

子どもと親のためのゼミナール (第15回)

2003年7月5日(土) 13:00~17:30 D校舎学生ホール

■心の悩みを聴く体験学習

—カウンセリング実技講座—

大辻 隆夫(本学助教授)

石野 泉(本学非常勤講師)

2003年7月6日(日)

午前の部 9:30~10:30 B420教室

■環境と脳の発達

佐藤 益子(本学教授)

10:30~12:00 B420教室

■自閉症者への発達年代別課題

高木 徳子(本学教授)

午後の部 13:00~16:20 B114教室

■保育における児童文化の役割(体験学習 おもちゃづくりを含む)

村榮喜代子(本学助教授)

2003年10月18日(土) 13:30~16:30 C501教室

■おはなしと浜田広介

岡田 純也(本学教授)

■私とおはなし

佐野 浅夫(俳優・語り手)

2002年度 家政学研究科児童学専攻修士論文 論題一覧

- | | |
|---------------------------------------------------------|-------|
| 1) 自閉症者Mの自己概念についての一考察 | 袴田 文 |
| 2) 高機能自閉症者における家族認知と心理化について
—Family System Test を用いて— | 芹沢 洋子 |
| 3) TED HUGHES 研究 —子ども向けの詩を中心に— | 坂野 弘美 |
| 4) 人魚物語と挿絵考察 | 吉尾 英子 |

2002年度 児童学科卒業研究論文 論題一覧

<児童心理学>

(指導 田川元康教授)

- | | |
|---------------------------------------|---------------|
| 1) 女子大学生のシャイ特性に関する研究 ~測定尺度作成の試み~ | 大友貴美子 |
| 2) 大学生における向社会的行動の一考察 —地域交流との関連について— | 小澤 絵美 |
| 3) 自閉症児の特性理解とその支援の方法 ~TEACCH の有効性の検討~ | 杉山 梢
高井加代子 |
| 4) ~児童養護施設の実態調査~ —実習生からの資料の分析を通して— | 堤 昌代 |
| 5) 大学生の共感性と障害児・者に対する意識的態度の関連について | 藤原 涼子 |
| 6) 高校生の「悪い行為」観の分析 | 堀居あゆみ |
| 7) 青年期の不安と信仰心についての一考察 | 光枝 元子 |
| 8) 自閉症児理解における視覚パネル教材の有効性の検討 | 山瀧 智美
山田 彩 |

9) 障害児療育についての一考察 ～野外活動の体験から～ 山本 容子

(指導 高木徳子教授)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1) 自閉症児 T・E 事例研究 | 小池美奈子 |
| 2) 自閉症児 K・S の事例研究 | 薬師寺真理 |
| 3) 失行症児 T. Y の事例研究 | 笠井 綾子 |
| 4) プラダー・ウィリー症候群児 S. K の事例研究 | 藪内 雅 |

<児童保健学>

(指導 佐藤益子教授)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1) 周産期ハイリスク児の身体発育およびリスク因子の解析 | 井刈 純子
岩崎 佑美
横関真由美 |
| 2) 周産期ハイリスク児における行動発達の追跡研究 | 外谷 佳子
吉田理絵子 |

(指導 衣笠紀玖子講師)

- | | |
|----------------------------------------|----------------|
| 1) 性に対する意識・知識調査と性に関する実態 ～性教育のこれからについて～ | 岡野 妃紗
児玉 未来 |
| 2) 女性の生き方について | 白石 令子
白川 香子 |
| 3) 『しつけについて』～親子の意識調査からの検討～ | 得能 加名 |
| 4) 性・性感染症に関する意識調査と実態調査 | 中居外喜子
南條 順子 |
| 5) 世代間交流・地域交流の体験の実態調査と子育てに関する意識調査とその考察 | 平田 淑香 |
| 6) 子育て支援の在り方について —子育ての実態と意識調査から— | 中田 明美 |

<児童文化学>

(指導 岡田純也教授)

- | | |
|---------------------------------------------------------|-------|
| 1) 雛祭り・雛人形の研究 | 相澤 智子 |
| 2) トーベ・ヤンソンと「ムーミン」物語の研究 | 石田多栄子 |
| 3) ミヒヤエル・エンデ『はてしない物語』について
～映画「ネバーエンディング・ストーリー」との比較研究 | 伊藤 知香 |
| 4) 子どもをめぐる環境と国際理解
～ドイツの日本人学校と「森の幼稚園」の調査を通して | 入江 佳織 |
| 5) ウォルト・ディズニーについて ～アニメーションの代表作を通して～ | 浦谷 悠子 |
| 6) あかずきん考察 —シャルル・ペローを中心に— | 榎原 理絵 |
| 7) ブライアン・ワイルドスミスの絵本に関する一考察 | 小川 優子 |
| 8) 絵本とジェンダー —女子大生への提案— | 黒田 真代 |
| 9) やなせたかしの作品に関する考察 ～アンパンマン絵本と幼児の関係 | 高台麻幾子 |
| 10) 宮沢賢治作品における木に関する一考察 | 小林苗穂子 |
| 11) 遊び環境と遊具の安全性について | 酒井 智帆 |
| 12) 子どもの遊びはどう変わったか ～遊び空間とテレビの変化から考察 | 佐藤 聡子 |
| 13) 「ムーミン」童話研究 | 新谷 望 |

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 14) ルイス・キャロルの愛したマザーグース —『アリス物語』を中心に | 庭谷ともこ |
| 15) 赤毛のアン比較研究 | 宮本 展江 |
| 16) A. A. ミルン作品研究 | 紋谷亜以子 |
| 17) 宮崎駿作品に関する一考察 ～別冊 絵本創作「しあわせなあに？」～ | 守山 瑞希 |

(指導 村榮喜代子助教授)

- | | |
|---------------------------------------------------|-------|
| 1) 化粧についての児童文化的考察 | 大場多江子 |
| 2) 絵本伝達に関する一考察 —いわゆるよみきかせについて | 河村 梨奈 |
| 3) 中川李枝子, 山脇百合子の絵本 —『ぐりとぐら』シリーズを中心に | 近藤 瞳 |
| 4) シルバニアファミリーの児童文化的考察 —アンケート調査を通して | 斉藤 真弓 |
| 5) 『アンネの日記』の映像化に関する一考察 —実写映画とアニメ映画を通して | 仙波 美季 |
| 6) エズラ=ジャック=キーツ研究 —絵本を中心に | 立花 真紀 |
| 7) 若草物語に関する一考察 —ジョーの生き方を中心に | 田中 裕紗 |
| 8) ピーナッツに関する一考察 —スヌーピーの50年 | 津嶋 愛 |
| 9) レオ=レオニ絵本研究 | 友本さやか |
| 10) 児童館の地域交流に関する一考察 —京都市の実態調査を中心に | 中島 絢子 |
| 11) 宮沢賢治童話作品研究 —星と光の童話を中心に | 藤井亜紀子 |
| 12) 手づくりに関する研究 —親子関係を中心に | 松木 洋子 |
| 13) 新美南吉作品研究 —童話を中心に | 村上 絵美 |
| 14) オオカミを題材にした読み物 | 安田 良子 |
| 15) 原爆絵本の作品考察 | 吉村 友香 |
| 16) 1960年代, 1970年代の絵本の一考察 —親から子へ読みつがれる絵本 | 上田 鮎子 |
| 17) エリック・カール作品研究 | 植村 昌恵 |
| 18) 昔話の絵本化に関する一考察 —グリム童話を中心に | 木田 有美 |
| 19) さくらんぼ保育園からみる子育て観と子どもの成長
—『さくらんぼ坊や』のフィルムを見て | 佐藤 友映 |

<児童教育学専攻>

(指導 岩川淳教授)

- | | |
|-----------------------------------------------------|-------|
| 1) 攻撃行動の方向性と親の養育態度及び子どもの人格について
—外罰的攻撃反応と内罰的攻撃反応— | 川村 瑠衣 |
| 2) メラニー・クラインと D. W. ウィニコットの発達論の比較に関する研究 | 富田 彩 |

(指導 大辻隆夫助教授)

- | | |
|----------------------------------------------------------|----------------|
| 1) 過度のしつけが将来の養育態度に及ぼす影響について
～児童虐待の世代間伝達に関する心理学的研究～ | 宇野 智子
長谷川純子 |
| 2) グループ・カウンセリングにおける効果としての共感性の向上 | 大石 奈美
矢持 郁子 |
| 3) 理想化された自己と非理想化された自己の形成と乖離の心的メカニズム
—引きこもりの青年の事例を通して— | 大島 尚子 |
| 4) 投影樹木画法における青少年の不応指標について | 大西 珠里
山田 有子 |
| 5) セクシュアリティに関して —セクシュアルマイノリティに関する認識— | 小川 知海 |

- | | |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 6) 保育における水遊びの効果に関する臨床心理学的研究 | 川鯉 陽子
吉田いずみ
佐藤 由似
河嶋 麻恵
高橋 経子
水上かおり
田中利江子
松井恵理子 |
| 8) グリム童話から学ぶ虐待 | |
| 9) 青年期のうつ自覚とうつ傾向について
～セルフ・モニタリング尺度及び投影樹本画法から～ | 永野 綾
山口真奈美
渡辺 瑞穂 |
| 10) 虐待者の心理的背景と被虐待児の心理・行動特徴 | 前田 真里
正木 恵日
森尾 桂子
安野 未来
佐々木仁美 |
| 11) 保育における水遊び効果に関する心理学的研究 | 佐武 仁美
渡邊奈津子 |
| 12) 対人関係における青年女子の「甘え」の構造について ー長女の場合ー | |
| 13) 非行を主とする情緒障害の要因と生活意識について | |
| 14) 早期教育について考える ー早期教育以前に求められるものー | |
| 15) 母子関係と子ども（青年期女子）の感情表出の関連について | |
| 16) 幼稚園・保育所の保護者の子育て意識と保育者の保育観に関する調査研究 | |

<児童表現学>

(指導 土田隆生教授)

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1) 生き生きとした描画表現を目指して ー子どもの描く「ザリガニ絵」ー | 大戸友美子
近葉 良子
加古 杏奈
高沢 美紀
荒田麻菜美
山内まどか |
| 2) 生活廃棄物を利用した手作り玩具の研究 ーゴミ問題の視点からー | |
| 3) 絵本における現状と課題 ー親子へ贈る手づくりしかけ絵本ー | |
| 4) 立体物に対する彩色活動からみる幼児のイメージの世界 | |

(指導 新矢博美助教授)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1) 女子大学生の身体活動量と体構成の関係 | 太田 聖子 |
| 2) 生活時間調査からみた教育実習と日常生活のエネルギー消費量の比較 | 麻生 絵里 |
| 3) 心拍数からみた教育実習中のエネルギー消費量について | 五十嵐藤菜 |
| 4) バレーボール練習時の環境温度と体温調節反応の関係 | 影山 有香 |
| 5) ダンス経験の有無によるリズム感の違いについて | 佐藤 朋香 |

(指導 野村誠講師)

- | | |
|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1) 音楽家・久石譲について ー映画『風の谷のナウシカ』よりー | 櫻原 愛
西村 寛子
下野 由理
多田 香織
谷野由香里 |
| 2) 音楽は人にどのような影響を与えるのか ー音楽療法とはー | |
| 3) 子ども達の韓国との交流「創造的な学習の時間」を利用した宇治小倉小学校の実践 | |
| 4) アニメソングの移り変わり | |

- 5) 理想の参加劇を求めて
～参加劇「おおきな・おおきなかぶ」の制作・公演を通して～
- 溝渕 文
渡邊由香利
永原 由佳
別府美和子

<仏教学>

- 1) 日本における緩和医療 ～わが国でホスピスを身近なものにするための提言～ 藤田 茜
2) 仏教童話と昔話におけるねらいの共通 山内 美和

<投稿規定>

1. 本誌の投稿資格は、京都女子大学家政学部児童学科所属の教職員および編集委員会が必要と認めたものとする。
2. 本誌は児童学の諸領域に関する原著論文、綜説、評論、研究報告、情報、紹介、書評、および児童学科の諸活動に関するニュース、その他などを掲載する。
3. 原著論文は未公刊のものに限る。
4. 一論文の長さは、原則として400字詰原稿用紙50枚までとする(図表も含む)。ただし、編集委員がとくに必要と認めたものはこの限りではない。
5. 印刷に際しては、原則として無料であるが、とくに費用を要するものには著者が負担しなければならない場合がある。
6. 執筆要領：
 - (1)原稿は、横書きを原則とし、当用漢字、新かなづかい、算用数字を用いる。外国語はすべてタイプで打つ。
 - (2)外国の人名・地名は、原語を用いる。その他の外国語には、なるべく訳語をつける。
 - (3)図表・グラフには原則として欧文のタイトルをつける。
 - (4)参考文献は、本文の終りに原則として、著者の姓を基準にA, B, C順に配列する。同一著者では年次順とし、さらに同年の場合は、1968a, 1968b, のように区別する。
文献の書き方は以下の例示のようにする。

[雑誌]

- 1 Biederman J, Steingard R (1989) Attention-Deficit Hyperactivity Disorder in Adolescents. *Psychiatric Annals* 19: 587-596.
- 2 佐藤益子, 水田隆三 (1986) 低出生体重児の行動発達—学童期におけるソフトサイン— *児童学研究* 16: 3-13.

[単行本]

- 3 Touwen BCL, Prectl HFR (1970) The neurological examination of the child with minor nervous dysfunction. *Clinics in Developmental Medicine* 38: London, Spastics International Med. Publ..
- 4 寺道由晃 (1986) 日常生活指導, 三河春樹(編); ぜんそく児療養の手引き: 東京, 金原出版, 15-48.

<注> 機関誌は巻, 号, 頁の順とする。単行本は著書名, 出版地, 出版社, 引用頁とする。機関誌名は, 著名なものに限り略記してもよい。

- (5)本文中に参考文献を引用した場合は、原則として著者名・出版年号のみを記載すること。
- (6)論文には、欧文の表題、著者名、所属を必ず添附する。
- (7)原著論文には、原則としてタイプ用紙2枚以内の欧文抄録をつけること。
7. 執筆者に対しては、当該論文を単位として、別冊30部を無料で贈呈する。それ以上の希望がある場合には、その実費を負担しなければならない。
8. 原稿の採否は本誌編集委員会によって決定する。
9. 原稿は、京都女子大学家政学部児童学科「児童学研究」編集係宛にとどけるものとする。

〈本誌刊行規定〉

1. 本誌「児童学研究」は、京都女子大学家政学部児童学科の研究活動、およびそれに関連する諸情報を公報することを目的として刊行される学術研究機関誌である。
2. 本誌の刊行は、原則として当該年度に一冊とし、年度に関係なく通しナンバーをもって表示する。
3. 本誌は、児童学科関係教職員および学外の児童学関係者に配布される非売品である。
4. 編集委員会は、児童学科教室会議を構成する教員メンバーによって組織され、その代表者（以下、編集責任者という）は、当該年度の児童学科図書委員をもってこれにあてる。
5. 本誌の刊行責任者は、当該年度の児童学科主任とする。

〈編集後記〉

児童学研究第34号をお届けします。

児童学研究は、本号をもって最終号となります。学科主任の土田隆生教授が本号巻頭言「蘇生を賭して」において述べられている通り、本学科は本年4月より文学部の教育学科と一体と成って、新学部「発達教育学部」として発足し、新たな展開を始めます。これまでの多くの諸先輩方の労苦に深く感謝しつつ、今後の学科のますますの充実と発展を実現すべく学科教職員一同誠心誠意尽力する所存です。従来にも増して、先輩諸氏の暖かいご指導と弛まぬご協力を賜りますれば幸甚に存じます。

さて、今号は原著論文3編及び翻訳2編を掲載いたしました。次号は発達教育学部紀要（仮称）として第1歩をしるします。今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（大辻隆夫記）

児童学研究 第34号（非売品）

平成16年2月5日印刷
平成16年2月10日発行

編集責任者：大 辻 隆 夫
刊行代表者：田 川 元 康

発行所：〒605-8501

京都市東山区今熊野北日吉町35

京都女子大学
家政学部児童学科

TEL：(075)531-7135—7137・7260

印刷所：株式会社 昭英社

TEL. (075)351-1811 FAX. (075)365-0113

E-mail：shoeisya@joy.ocn.ne.jp

Archives of Paidology in Kyoto Women's University

February 2004 No. 34

CONTENTS

Preface

Anticipation for Revivification Takao Tsuchida 1

Original Article

Effects of Rich Environment on Growth and Development in Experimental
Fetal Alcohol Syndrome Masuko Sato 3
Tunekazu Yamano

Training Effect of Communication Technique in Care Work for High School
Student belonging to the Welfare Course via Dog and Rose Role Playing
Technique Takao Otsuji12
Mari Shiokawa
Takako Uekawa
Nobuko Hiratsuka
Masayo Tsukahara

An Examination of the Concept of Projective Identification: A play therapy
case study with a 7-years-old boy who progressed from preambivalence to
ambivalence. Izumi Isino25
Kaori Monno

Translation

Basic Skills for Group Leaders..... Saburo Funaoka36
Goro Itai

Workbook Takao Otsuji54
Mari Shiokawa
Kentaro Matsuba

Announcements68

Published by Dept. of Paidology, Faculty of
Domestic Science, Kyoto Women's University, Kyoto, Japan
Representative: Takao Tsuchida
Editor : Takao Otsuji